

矢 吹 町 の 名 木

矢 吹 町 教 育 委 員 会

矢 吹 町 の 名 木

昭 和 53 年 6 月 3 日

昭 和 54 年 8 月 22 日

矢吹町文化財保護審議会・調査

矢 吹 町 教 育 委 員 会

目 次

発刊のあいさつ	2
「矢吹町の名木」調査をおえて	3
中畑陣屋の二本榎	4
五本松の松並木	5
古山王の種蒔桜	6
三島街道名代の桜	7
幸福寺のシダレ桜	8
幸福寺のシダレ桜	9
大和久の氏神桜	10
山王寺の臥龍の松	11
国神の山桜	12
長峰の松	13
中畑澄江寺の大杉	14
大畑前久保の不動桜	15
五本松・境の桜	16
神田慈眼寺のシダレ桜	17
神田の種あげ桜	18
谷中八槻さまの大榎	19
三城目行屋のシダレ桜	20
三城目熊野様の種あげ桜	21
南沢の桜	22
中丸・明神の松	23
須乗の松	24
堤・氏神の桜	25
明新の松	26
矢吹町の名木について解説	27
名木調査の調査員	28
矢吹町の名木調査について	29
矢吹町の名木所在地図	31

発刊のあいさつ

昨年につづき「矢吹町の名木調査」が文化財保護審議会委員の各位によって行なわれました。

これらの名木は長年の間我々の部落や町を見守って幾多の世の変遷を経て来ました。高い梢を見上げると何かを語りたいような又長年の風雪に堪えて来た雄々しさを感じます。

これらの名木は一朝一夕にして出来たものではありません。祖先が我々にのこしてくれた無言の教訓です。大切にすると共に後世に伝えるべく努力すべきだと思います。名木の発刊を喜ぶと共に多くの人々の心の憩いにしたいものです。

矢吹町教育委員会教育長 酒 井 正 敏

「矢吹町の名木」調査を終えて

当矢吹町教育委員会事業計画の一環として当文化財保護審議会の委員一行において昭和53年度より同54年度の二回にわたり現地名木調査を行いました。今回は前回のものに新しいものを加えて改訂版として発刊いたしました。このように写真の通り大木・珍木などが広範囲に数多く点在しております。これらのものは一朝一夕に成長をみたものでなく自然と先人の創造性の流れの中に含まれた長い年月にわたる結晶で現今、感嘆観賞のうえ酒杯などを交わし酩酊不覚の域をこゆるなどはまことにご同慶にたえないところであります。同時に世代の自然環境保全の認識をたかめ物心両面の累積した貴重な遺産としてまた新たに植林増進、学術研究などにつとめ身辺から郷土を正しく理解されるようなことなどが課せられた使命の一端ではないかと思われ
ます。

矢吹町文化財保護審議会々長 円谷善人



中畑陣屋の二本榎

(県指定天然記念物 昭和46年4月14日)

中畑字本村、岡崎憲太郎氏の庭にある。岡崎氏は、天保8年(1837年)に当地方の領主となった旗本、松平軍次郎の陣屋で、この二本ガヤは陣屋建設当時すでにみごとな生育をしていたので残したと記録されている。南北に1mの間隔で並立する二本のカヤで、南側のカヤの根囲り5.2m、地上60cmの幹囲り5.18m、樹高20m、北側のカヤの根囲り4.8m、地上60cmの幹囲り4.03m、樹高19m、いずれも、地上1m内外で数本の太枝に分枝し、ほぼ直上している。樹令は400年以上と推定され樹勢も旺盛であり、旧陣屋庭園内にあることから貴重である。

(矢吹町中畑228番)



五 本 松 の 松 並 木

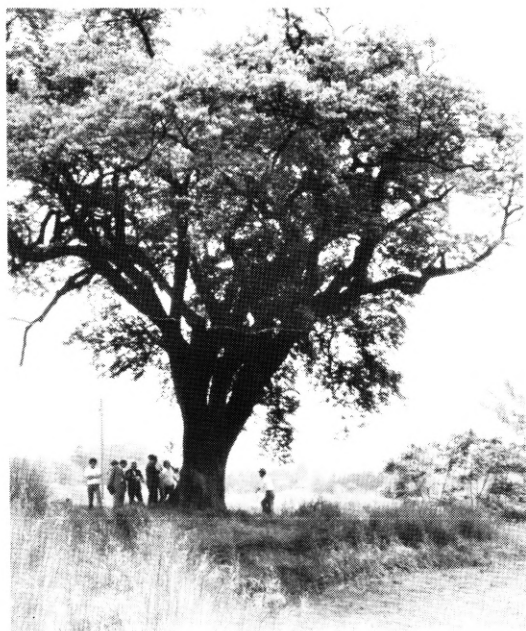
(町指定史蹟 昭和52年7月26日)

五本松自然環境保全地域として、昭和49年2月12日県指定、史蹟五本松の松並木として昭和52年7月26日町指定となった。

寛永12年(1635年)三代将軍家光時代に参勤交代が制度化し、全国街道筋に松並木を植えさせた。大名や旅人の往来はさかんになり、松並木は夏は陽をさけ、冬は風をよけて旅人の便をはかり、旅情をなぐさめた。

この松並木は、松平定信の時代に領内の街道に松苗2300本を植えたのが始まりであるといわれている。現在見られるものは、明治15年(1885年)頃補植したものである。

総計232本のうち北側の116本が矢吹地域に属している。太いものは目通り幹囲、2.47mもあるが、1.5m～1.8mのものが多く、樹高は20m、樹令は太いもので120年、その他は90年前後と推定される。樹勢は良好、歴史上、又、自然環境の上からも大変貴重な松並木である。(矢吹町赤沢456番、同562番2)



古 山 王 の 種 蒔 桜

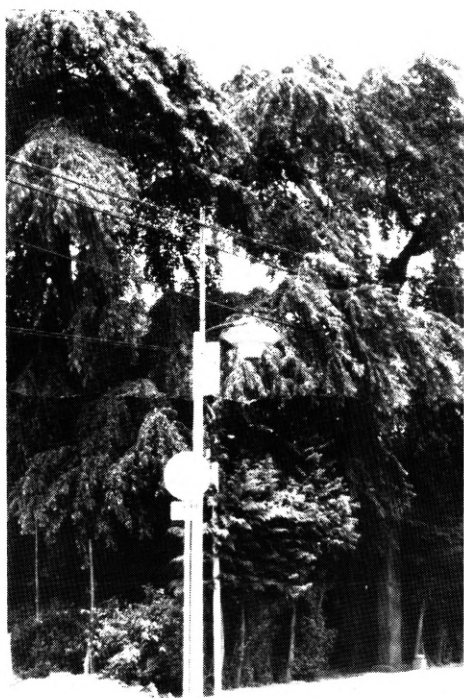
エドヒガンは日本に広く分布し、樹齢数百年の大木となっているものが多い。一名ウバヒガン又はアズマヒガンともいう。この花の咲く頃を目安として種子を蒔いたので、種蒔桜と名付けられた。花は淡紅色、目通り幹囲4.37m、地上2.2mより数本に枝分れしている。樹高10m、枝張りもよく、又樹勢も旺盛、推定樹令230年、本町の桜の中では老巨木である。

(矢吹町川原63番)



三 島 街 道 名 代 の 桜

苗代桜といわれ、この花の咲く頃苗代作りをはじめたという。エドヒガンで、目通り幹囲 3.24 m 、樹高 18 m に及ぶ大樹、推定樹令 170 年。
(矢吹町新町 96 番)



幸 福 寺 の シ ダ レ 桜

寺の正面参道に、大小8本のシダレ桜があり、柳の枝に桜の花を咲かせた優美な姿を呈す。この中で大なるものは、目通り幹囲2.05m、樹高13m、樹令105年。
(矢吹町新町230番)



幸 福 寺 の シ ダ レ 桜

寺の裏側にあるシダレ桜がこの境内では最も太く、目通り幹囲2.78m、樹高は15m、推定樹令140年、樹勢も旺盛である。シダレ桜は枝垂桜とかき、一名イトザクラ（糸桜）ともいう。エドヒガンの変種で枝がたれたもの、多くの園芸品種がある。

（矢吹町新町228番1）



大 和 久 の 氏 神 桜

小林氏宅の前庭の小高いところに植樹されたエドヒガンで、根元が裂けてはいるが大樹で、目通り幹囲4.10m、推定樹令220年、樹勢も比較的良好である。

(矢吹町大和内61番)



山王寺の臥龍の松

中通り地方は、アカマツ林区といわれ、アカマツが殆んどでありクロマツの植栽された大樹は極めて少ない。この寺の正面境内のクロマツは樹形もよく、樹勢も旺盛、目通り幹囲というよりは斜上しているので根元より2 mの幹囲が1.53 m、樹令170年の老松である。

(矢吹町大和内89番)



国 神 の 山 桜

原宿と平鉢の間にある国神館跡に植樹されたもので、ヤマザクラが5本ある。最も大きいものは目通り幹囲3.2 m、樹高9 m、樹冠のひろがり14 mあり、地上2.5 mより枝分かれている。他の4本の目通り幹囲はそれぞれ2.5 m、1.9 m、1.8 m、1.7 mである。このヤマザクラのほかにアカマツが4本あり、最も大きいものの目通り幹囲は1.98 mある。いずれも樹勢は旺盛であり、歴史的にも貴重である。

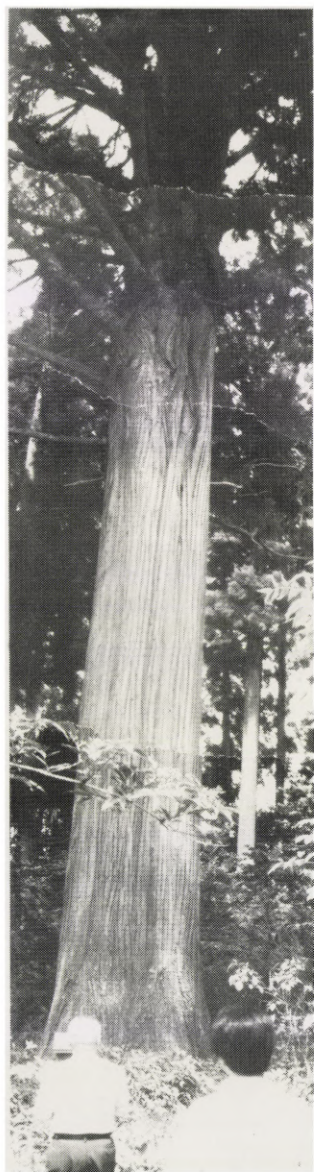
(矢吹町国神18番)



長 峰 の 松

長峰の田圃の中に立つアカマツで、目通り幹囲2.3 m、樹高9 m、地上1.5 mのところから大枝が二方にのび、枝張りは15 m、樹勢は極めて旺盛で、樹姿もよく整っている。樹令は120年以上と推定される。この松は遠藤寅七氏所有のもので、その昔稲場の松として、休み場、昼食時の憩いの松として利用されていたものといわれる。

(矢吹町西長峰112番2)



中 畑 澄 江 寺 の 大 杉

スギ並木、大スギとして天然記念物に指定されているものは極めて多いが、本町内では最大のものと思われる。目通り幹囲6.06m、樹高30mを越し、推定樹令400年、近寄ると年輪の重さに圧倒されそうになる。

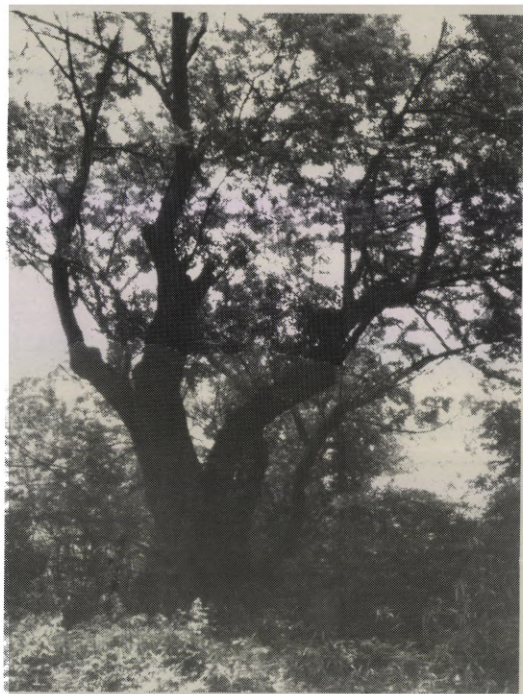
(矢吹町中畑93番1)

大畑前久保の不動桜

シダレザクラは、母種のエドヒガンと同じく長寿の桜として各地に老樹が見られるが本種も又その種類で、目通り幹囲3.00m、樹高15m、推定樹令150年、樹勢も旺盛である。

(矢吹町住吉147番)





五 本 松 ・ 境 の 桜

五本松の松並木の中にあり、踏瀬と矢吹町との境界に植栽されたエドヒガンの老樹、目通り幹囲2.77 mであるが、余り樹勢は旺盛ではない。推定樹令150年。

(矢吹町赤沢456番3)



神田慈眼寺のシダレ桜

寺の境内に老樹が2本あり、両樹ともシダレ桜で、太い方の目通り幹囲3.57m、推定樹令190年、他方は幹囲2.13m、樹令120年。

(矢吹町神田東308番、同311番)



神 田 の 種 あ げ 桜

矢吹石川線県道の土堤に植栽されているシダレザクラ、道路側から見るとさして老樹に見えないが枝振りは良好、地上1mの幹囲が3.41m、2本に枝分れしており、樹高14m、推定樹令180年。

(矢吹町神田東314番3)



谷 中 八 槻 さ ま の 大 榎

エノキはニレ科の仲間で国の天然記念物に指定されているのは長野県丸子町のシダレエノキが見られるが、この目通り幹囲が約 1.58 m、細いがシダレザクラのような奇観を呈することで指定された。本町内のエノキは、神社の神木として植栽されたものと思われる。2 本が太くなり連結した様相を呈するが、1 本は幹囲 4.45 m、他は 3.89 m、推定樹令 110 年。樹勢は極めて旺盛である。

(矢吹町谷中 268 番)



三城目行屋のシダレ桜

行屋のシダレザクラは、澄江寺境内にあり、目通り幹囲2.60m、樹令130年。
このほか学校山のシダレザクラは、地上1mの幹囲が3.20m、推定樹令170年。
地上1mより2枝に分枝している。両サクラ共樹勢は旺盛である。

(矢吹町三城目237番)



三城目熊野様の種あげ桜

この種あげ桜はシダレザクラで三城目向山（天開）地内熊野神社境内にあり、目通り幹囲が2.90 m、樹令150年。地上1.5 mより2枝に分枝している。樹勢は旺盛である。境内には江戸時代建立の庚申塔、明治8年建立の熊野神社の石祠などがある。

（矢吹町天開427番）



南 沢 の 桜

三城目南沢公民館脇にある、しだれ桜で、目通り幹囲3.3 m、地上2.2 mより三枝に分岐、樹高は14 m、枝張りは13 m、樹勢よく、樹令は170年以上と推定される。

(矢吹町沢尻 35 番 1)

中 丸 ・ 明 神 の 松

三本のアカマツのうち、二本は直立し、他の一本は、横に伸び特殊な樹形を保っている。目通り幹囲は、直立するものはそれぞれ2.38m、1.45m、横がするものは、2.13mあり、いずれも樹勢は旺盛である。

昭和54年10月、上の松は台風の影響でか、枯死したため伐採された。

(矢吹町本城館 54 番、同 110 番)





須 乗 の 松

須乗の三叉路のほぼ中央にあるアカマツの大樹で、樹形も比較的よく、また樹勢も旺盛である。目通り幹囲 3.05 m 、樹高 15 m 、樹冠のひろがり 14 m あり、推定樹令は 130 年である。

(矢吹町諏訪の前 6 番)



堤 ・ 氏 神 の 桜

氏神様の桜として、吉田氏宅脇にそびえるエドヒガンの大樹で、目通り幹囲2.7m、樹高12m、樹冠のひろがり11m、樹令は140年程度と推定される。木の根元に供養塔三基が建てられてある。

(矢吹町堤72番)



明 新 の 松

明新の阿武隈川添いの斜面に立つアカマツで、大して太くはないが、目通り幹
囲2.55m、地上5mより2枝に分岐、樹高は14m、樹冠の一部は川面に向ってし
だれるように伸び、樹形もよく、また、樹勢も良好である。

(矢吹町明新414番3)

矢吹町の名木についての解説

矢吹町の年平均気温は、12℃前後ですから気候としては、温帯と暖帯の境界附近にあたる地域と考えられます。海拔200～300メートル程度の平坦地の為、変化には乏しいが、暖帯性の植物があったり、北限と見られる植物もあり、比較的興味深い地域でもあります。

文化財保護審議会では、名木調査をしようということになり、53年54年にわたり、そのいくつかを調査したが、当地域には、数多くの貴重なものがあることにびっくりしました。これらのものは昔の人々の生活、農作業、或は信仰と深く結びついて大切に保存されてきたものと思われます。これらは将に一朝一夕になるものではなく、百年、数百年と長い年月をへて現在にいたったものであり、すばらしいこの文化遺産は、私共がこれを保護し、後世に受け渡す責任を強く感じるものです。

この調査報告にのせたものはその一部です。今後更に調査を進めていきたいと考えております。

大樹の中で最も多かったのがサクラでした。サクラは日本ではどこでもよく育つし、最も親しみ易いものだったように思われます。サクラの中で寿命の長いものは、エドヒガン又は、その変種のシダレザクラのようです。

矢吹町のある中通り地方はアカマツ林区といわれているように、アカマツがよく土地に合い、アカマツ植栽林の多い地域です。個々のものとしての老大樹はそう数多くはありませんが、何といってもみごとなのは、五本松の松並木です。県内のどこの松並木よりも立派ではないかと思われます。近頃、マツケムシの被害がでていようですが、何とかこの危機より早く脱出させたいものです。

中畑陳屋の二本カヤは県指定の天然記念物の威容を保って見ごとであるし、澄江寺の大杉は町一番の大樹とみうけられ近寄ると年輪の重みと偉大さに圧倒されそうになります。

町のはぼ中央、町役場の東方1キロメートルにある面積約3.7ヘクタールの諏訪山保健保安林は、県有地でもあり、伐採されなかった為この附近の森林植生をそのまま保っている大変珍しいところです。この森林は、コナラ林群落とシデ林群落の二つの群落よりなっており直径90センチメートル、樹高20メートル程度のコナラ、イヌシデ、アサダ、ケヤキ、コブシ等がうっ蒼と生え繁っています。矢吹が原の開拓が進まなければ、このような森林群落が到るところに存在していただろうと推定されます。あげればきりがありません。私達の住む町は歴史と自然にめぐまれた大変すばらしいところだと思います。自然を守ることは私達の生活を守ることにつながります。子孫の為に保護しなければならないと思います。

矢吹町文化財保護審議会委員 佐 藤 隆



諏訪山保健保安林 (矢吹町諏訪の前 116 番)

名木調査の調査員

矢吹町文化財保護審議委員

鈴木 栄	(昭和53年度まで)
藤井 隆 繁	(")
水戸 豊 子	(")
円谷 善 人	(昭和53年度及び昭和54年度)
広瀬 昌 弘	(")
佐藤 隆	(")
菊地 啓 二	(")
井上 正 博	(")
佐久間 春 雄	(")
須藤 タ キ	(昭和54年 4 月 1 日から)
遠藤 重 衛	(")
佐久間 季 盛	(")
岡崎 長 成	(")

矢吹の名木・解説

佐藤 隆

矢吹町教育委員会社会教育係

星 圭之助 (文化財担当)

矢吹町の名木調査について

- ◎ 調査地域 矢吹町内
- ◎ 種別 植物・樹林
- ◎ 調査主体 矢吹町教育委員会
- ◎ 調査員 矢吹町文化財保護審議会委員
矢吹町教育委員会職員
- ◎ 調査期間 昭和53年6月3日
昭和54年8月22日

◎ 調査経過

昭和52年度文化財保護審議会において、町内の名木調査の必要性について、意見が出されていたが、昭和53年6月3日実地踏査を行った。

文化財保護審議会会長円谷善人氏、同副会長佐藤隆氏ら委員各位が朝9時から夕方6時まで矢吹地区、中畑地区、三神地区の道順で行われ、この間にあって道みち町民各位のご協力とご指導を得た。

今回調査した樹林の概要については本文のとおりですが、この外、たとえば、寺内地内の「つつじ」「糸ひば」、中畑地内の「ぐみの木」「しだれ桜」、三城目地内の「澄江寺の桜」「景政寺の桜」「御霊神社の大杉」、神田地内の「地藏堂のしだれ桜」などがあり、調査実測を行ったが紙面の都合で割合せざるを得なかった。

前年度に引きつづき昭和54年8月22日の実地踏査では、中畑地区の長峰、松倉、三神地区の堤、明新と須乗地内を主に行った。内容は本文のとおりですが、この外、「松倉宝蔵院のキャラ」「中野目・天王様の杉」「中野目の樫」などがあったが紙面の都合で割合せざるを得なかった。

また、矢吹町には「大池公園の樹木」「諏訪山の樹木群」「中畑観音山館の樹木群」などがあり、それぞれ保護保全がはかられているようである。

今回の調査報告書は、200部限定出版となったが、ご活用いただいて、町内の「樹木の見直し」文化財愛護、自然環境の保全を広く町民のご協力により推進してゆくとともに、「樹木」にまつわる歴史や風土、民俗などというものを考えてみたいものである。

この「報告書」をまとめるにあたっては、とくに文化財保護審議委員、佐藤隆先生にご執筆いただきました。

教育委員会社会教育係 星 圭之助

矢吹町文化財調査報告書 第3集

矢 吹 町 の 名 木

編 集	昭和54年11月10日	
印刷発行	昭和54年11月10日	
発 行 者	矢吹町教育委員会教育長	酒 井 正 敏
発 行 所	矢吹町教育委員会	

矢吹町の名木所在地図

